

「一般住民における感染症及び食品安全に関する危機意識調査」 結果概要(速報版)

＜調査実施概要＞

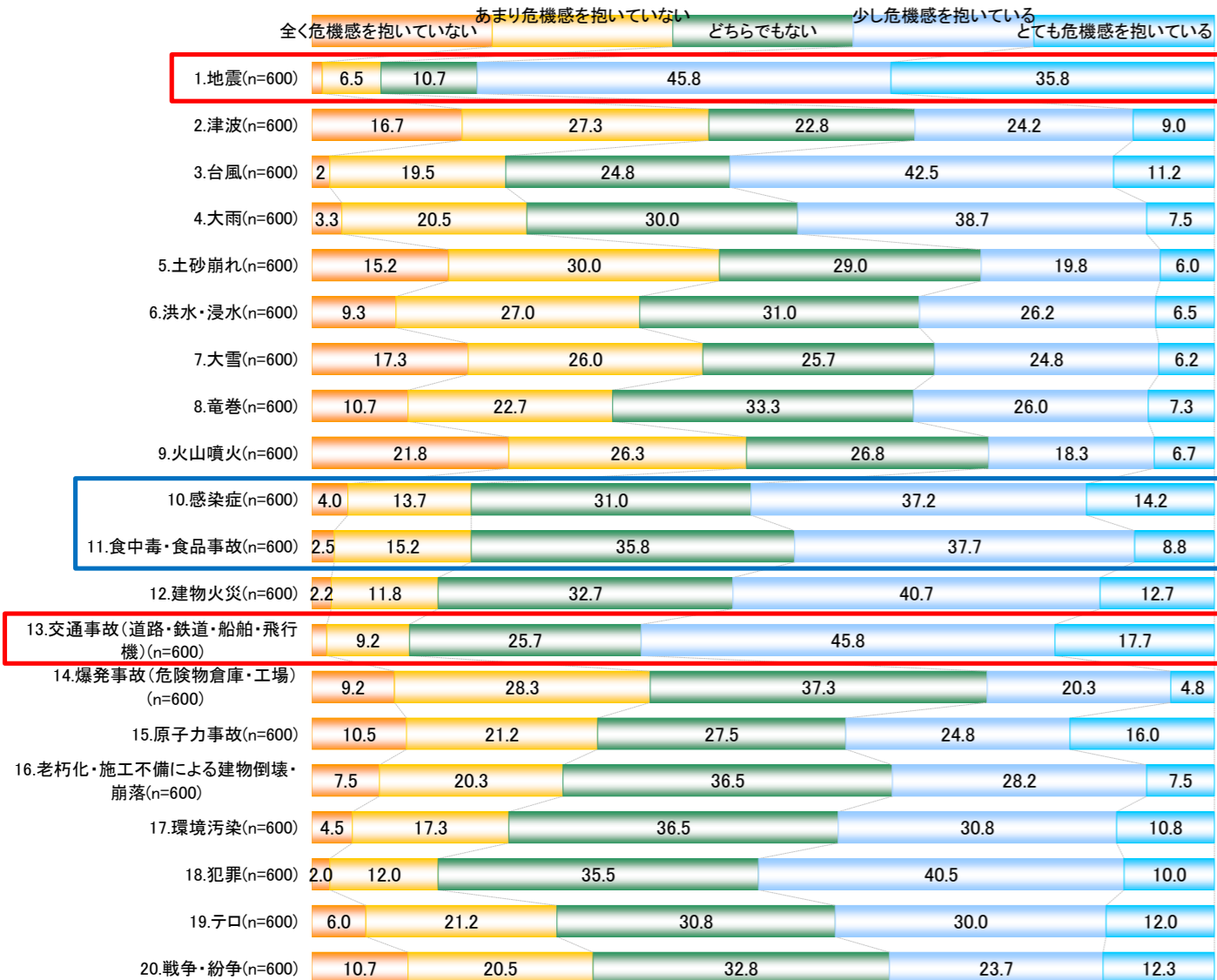
【調査目的】	「一般住民における感染症及び食品安全に関する危機意識」の検証
【調査主体】	明治大学 危機管理研究センター
【調査機関】	楽天リサーチ 株式会社
【調査方法】	インターネット調査
【調査対象】	モニター登録している全国の20歳～69歳男女
【対象者抽出ソース】	楽天リサーチモニターおよび提携パネル
【対象者設定】	登録モニターからの無作為抽出
【回答数】	600名(男性379名、女性221名、平均年齢47.1歳)
【調査期間】	2015年2月20日～23日

■各災害に対して一般住民が抱く危機感

最も危機感を抱いている災害は「地震」、次いで「交通事故(道路・鉄道・船舶・飛行機)」:

下記に挙げた20種の各災害について、一般住民に「危機感を抱いている程度」を尋ねたところ、最も危機感を抱いている災害には「地震」、次いで「交通事故(道路・鉄道・船舶・飛行機)」の順となった。「少し危機感を抱いている」及び「とても危機感を抱いている」の割合については、「地震」が81.6%、「交通事故(道路・鉄道・船舶・飛行機)」が63.5%という結果となった(下図赤枠内)。一方、2014年を通して話題となった感染症(例:デング熱、エボラ出血熱)及び食品安全(例:チキンナゲット消費期限切れ問題)については、「感染症」が51.3%で全体で5番目、「食中毒・食品事故」が46.5%で全体7番目という結果となった(下図青枠内)。

問1.国内で起こる各種災害について、あなた自身が日常生活において抱く危機感の程度をお答えください。
(選択肢は1.「全く危機感を抱いていない」～ 5.「とても危機感を抱いている」の5件法)

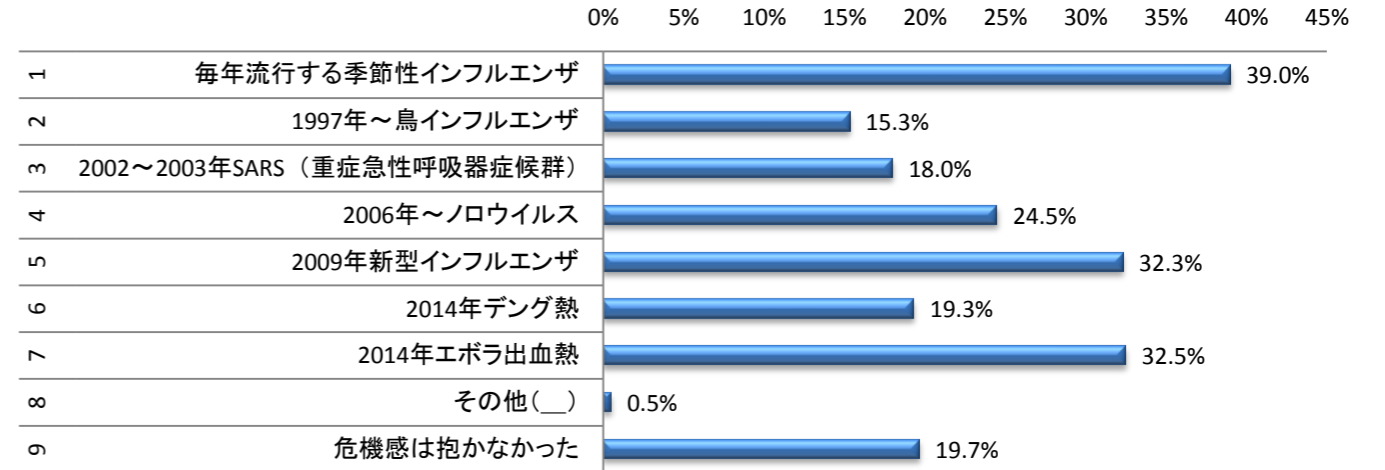


■近年最も危機感を抱いた感染症

近年最も危機感を抱いた感染症は「毎年流行する季節性インフルエンザ」、次いで「2014年エボラ出血熱」:

近年において最も危機感を抱いた感染症について尋ねたところ、「毎年流行する季節性インフルエンザ」が39.0%で最も高い割合となった。2014年に話題となった「2014年エボラ出血熱」は、32.5%で全体2番目に高い割合となった。一方、「危機感を抱かなかった」者も、全体で19.7%(118名)確認された。

問6.近年で最も危機感を抱いた感染症を以下から3つまでお選びください。(3つまで)



※上記各割合は、対象者(600名)が選択した割合を示している。

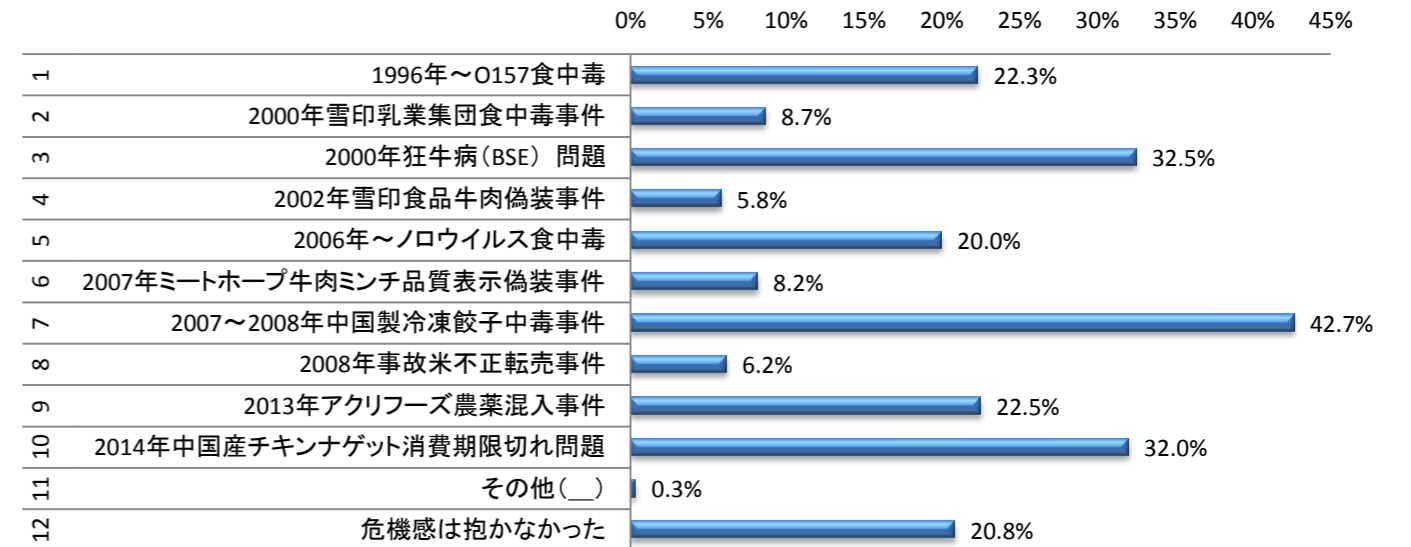
例:「1997年～鳥インフルエンザ 15.3%」は、600名中92名(15.3%)が選択したことを示している。

■近年で最も危機感を抱いた食品安全に関する事件/事故

近年で最も危機感を抱いた食品安全に関する事件/事故は「2007～2008年中国製冷凍餃子中毒事件」、次いで「2000年狂牛病(BSE)問題」:

近年において最も危機感を抱いた食品安全に関わる事件/事故について尋ねたところ、42.7%で「2007～2008年中国製冷凍餃子中毒事件」が最も割合が高く、次いで「2000年狂牛病(BSE)問題」の32.5%という結果になった。2014年に発生した「2014年中国産チキンナゲット消費期限切れ問題」も、32.0%で全体で3番目に高い割合を示していた。

問9.近年で最も危機感を抱いた食品安全に関する事件/事故を以下から3つまでお選びください。(3つまで)



※上記各割合は、対象者(600名)が選択した割合を示している。